

国際会議から

第51回大型風洞会議年次大会

2015年6月8日から6月11日までの4日間の日程で、第51回大型風洞会議年次大会(51st annual meeting of SATA)が開催され、参加しました。SATA(Subsonic Aerodynamic Testing Association)は、世界の亜音速(音速より低い風速)の大型風洞の会員制の協会で、米原風洞もこのカテゴリーの風洞です。会員になるには審査があり、米原風洞は1998年に審査を経て会員となりました。大型風洞を所有するボーイングやエアバスなどの航空機メーカー、BMWやホンダなどの自動車メーカー、NASAやJAXAなどの研究機関、大学なども会員となっています。参加者は全員風洞関係の研究者であり、会議は一同が一會

場に会して行われ、また、食事やテクニカルツアー(NASA風洞、バージニア航空宇宙センターなど)も全員参加でした。NASAラングレー研究所(アメリカバージニア州)のホストで開催された今回の会議では、これまで米原風洞で行ってきた風洞実験について発表を行いました。また、他の風洞が行っている実験内容、設備改修、実験ニーズの動向、実験ノウハウなどについて情報交換を行いました。



井門敦志
研究開発推進部
風洞技術センター
所長



会議の様子



バージニア航空宇宙センター

正式名称：51st annual meeting of SATA
 開催国：アメリカ合衆国
 (バージニア州ニューポートニューズ)
 期間：2015/06/08-11
 主催：Subsonic Aerodynamic Testing Association
 開催頻度：年1回
 次回開催予定：2016年6月 スイス(ルツェルン)
 ホームページURL：http://www.sata.aero

国際会議から

重軸重鉄道会議2015

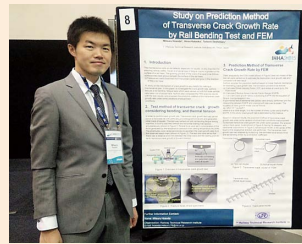
本国際会議は、主に重軸重の鉄道の問題を議論する会議であり、1978年から始まりました。過去の会議の開催国をみると、インド、カナダ、中国、ブラジルなどといった鉄鉱石などを積載した貨物列車が多く走行する鉄道を有する国で行われており、今回はオーストラリアのパースで開かれました。しかし、旅客列車の走行が主である国からも参加をしております。比較的軽い軸重の鉄道に通ずる研究開発内容も含まれています。特に全44のセッション中レールに関するものが8セッションもあり、レールに関する研究に取り組んでいるものにとっては貴重な議論をする機会でした。その他のセッションは、構造物や軌道など施設に関するものが半数程度を占めていますが、列車、車輪、車輪・レールの境界問題、オペレー



国際会議会場の
Perth Convention and Exhibition centre

ション方法など多岐に渡っています。

私は、レール頭部横裂の進展速度の推定に関する研究の発表を行いました。



会議の発表の様子

細田 充
軌道技術研究部
軌道構造研究室
副主任研究員

実施した試験や解析について、関心を持って頂き、特に試験手法の詳細について質問を受けました。本会議は、参加国・人数も大規模であり、会議の合間などでも、各国の研究者、事業者、およびメーカーの方など多くの方と情報交換することができ、非常に価値ある機会となりました。

正式名称：2015 International Heavy Haul Association Conference
 開催国：オーストラリア（パース）
 期間：2015/6/21-24
 主催：International Heavy Haul Association
 開催頻度：近年は小規模開催も含めて隔年
 次回開催予定：2017年6月 ロシア
 ホームページURL：<http://www.ihha.net/>